水泳時間

更新日：2007.3.30

＜代表値＞

行為者平均水泳時間：53.7 時間/年（行為者率：7.5%）

＜代表値のもととなる資料＞

SSF 笹川スポーツ財団（2002）は，スポーツ活動の実態を総合的に把握する目的で，笹川スポーツ財団が 1992 年より毎年行なっているものである。全国の 20 歳以上の男女を対象としており，標本数 3,000 人，有効回答者数は 2,267 人である。全国を 11 ブロックに分け，層化 2 段無作為抽出を行っている。主なデータには，スポーツ別実施頻度，実施時間，運動強度などがあり，地域別，都市規模別，年齢階級別，職業別，男女別に報告されている。全国から抽出された対象者のうち，調査年において水泳を行った人は 170 人（行為者率：7.5%）であった。

水泳をする人（170 人）の平均 1 回水泳時間は，全体で 74.4 分/回である。また，水泳をする人（170 人）の水泳実施頻度は，全体で 43.3 回/年である。代表値はこれらの値から，年間の水泳時間は 53.7 時間/年となる。

＜追加的情報＞

なし

＜数値の代表性＞

◇　代表値の信頼性：

―行為者率に関しては高（一般的な判断基準に基づくと）

―水泳時間に関しては中（行為者率が低く，結果的にサンプル数が少なくなるため）

◇　代表性に関する情報

全国を 11 ブロックに分け，層化 2 段無作為抽出法により抽出された全国の 20 歳以上の男女を対象としている。その標本数は 3,000 人，有効回答者数は 2,267 人となっている。しかし，実際に水泳をする人の割合は少なく 170 人であり，平均水泳時間の値はその 170 人から得られたデータである。

◇　入手できた資料の数

現在入手している水泳時間に関するデータは，SSF 笹川スポーツ財団（2002）のみである。

＜引用文献＞

SSF 笹川スポーツ財団（2002），スポーツライフデータ 2002―スポーツライフに関する調査報告書―.

＜更新履歴＞

2007.3.30 / 文章の体裁を整えました

水泳時間

更新日：2007.3.30

米国 EPA 暴露係数ハンドブックでの推奨値

米国 EPA 暴露係数ハンドブックでの推奨値のもととなった資料は，Tsang and Klepeis(1996)：National Human Activity Pattern Survey (NHAPS)である。この調査は，米国 EPA が 1992 年から 1994 年にかけて，米国を代表するように選ばれた 9,386 人を対象に行ったものである。この調査では，1 日の行動場所，活動，また暴露に関連する出来事（個人暴露，世帯の特徴，医療背景）が調べられている。過去 1 ヶ月間に水泳をした人は 9,386 人中 653 人であり，行為者率は約 7%となる。水泳時間の推奨値は，60 分/回と設定されている。この値は行為者水泳時間の中央値であり，一般集団に対する推奨値とされている。また，水泳実施頻度は 1 回/月と設定されており，行為者の過去 1 ヶ月間の水泳頻度（頻度の範囲は 1～60 回であり，そのうち最も多かった 1 回/月（行為者の 23%を占める）を採用。）の最頻値を用いている。